

Energy efficiency NEWS FLASH

(作成: SEAJ エネルギー効率利用専門委員会 独自の見解を含んでおり、内容を保証するものではありません。参考情報としてご利用下さい)

1) 件名

SEMICON West 情報

2) 内容

視察に行ってきた委員からの報告があったので抜粋を下記『4) 添付情報・資料』に記す。

3) SEAJコメント

ミニマルファブやIoTについては、省エネ、エネルギー効率利用の観点から、当委員会でも積極的に、調査、研究する必要性がある。

4) 添付情報・資料

450mm への移行について、インテルは、まだの様だったが、TSMC 社はやる気がありそうだった。分散しているファブを集約して 450mm に移行するような動きがあるのではないか。

ミニマルファブ(クリーンルームなし)が注目されている。

12.5mm ウェハで、大型の設備投資をしなくて半導体デバイスをつくる。

5 億の投資で、10 万デバイスぐらいの生産が車用デバイス等にちょうど良い。

工作機械も、デスクトップとなり、製品の生産ラインの横にデスクトップ工作機械を置いて部品をつくる。部品を離れたところにつくってトラックで運ぶ必要がない。

ヨーロッパでは、ドイツをはじめとした先進工業国が、今後も長期的により高い競争力を維持していくことが経済成長にとって重要だと考えている。

そのため、ドイツ政府は早くから「IoT (Internet of Things、モノのインターネット)」の分野に積極的だった。

初期の取り組みは「高度技術戦略」と呼ばれ、さまざまな研究により技術イノベーションを生み出し、競争力を高めることを目指していたが、それらの多くの研究を統合して発足したのが IoT を基盤にした「Industry 4.0」プロジェクトだ。

2013 年には 2 億ユーロ(約 280 億円)もの大きな予算が割り当てられた。

「インテリジェント監視システムや自律システムの開発を推し進め、インターネットにより工場内外のモノとモノ(IoT)が連携することで、新しい価値やビジネスモデルの実現を目指す」

5) 関連情報

特に無し

6) その他

特に無し

—以上—

Semiconductor Equipment Association of Japan